



JAC GUNMA

公益社団法人

日本山岳会

群馬支部報

第25号

2025年
7月10日

2025年度日本山岳会群馬支部通常総会

広報委員会を新設 PRと会員拡大に注力

5月21日18時30分から2025年度の群馬支部通常総会が、前橋市本町の前橋市中央公民館（前橋プラザ 元気21）5階の学習室で開かれ、2024年度の事業・決算報告、25年度の事業計画や予算案、そして今年度改選となる役員人事や規約改正などの全7議案が上程され審議された。いずれの議案も原案通り承認され、群馬支部の2025年度がスタートした。

開会に先立ち、根井康雄支部長は従来からの支部方針である「安全で楽しい山岳会」、「骨太の組織づくり」に加え、会員増強にも触れ、喫緊の課題である日本山岳会の組織・財政上の問題とともに、山岳会の存在意義として登山技術と山岳文化を支えることの大切さを強調し、会員増への取り組みに会員一人一人が積極的に向き合って欲しいと訴えた。

議案審議では、「山フェスタ」や「山の日イベント」、「ぐんま県境稜線トレイル安全等調査」「一般向けの自然観察会」などの支部全般にかかる公益事業と支部報発行やインターネットによる情報発信、山行委員会による支部山行などの共益事業を含めた全体計画のほか、各委員会から積極的な事業計画などが提案され、原案通り可決した。あわせて事業委員会を廃し、総務委員会がその事業を引き継ぐとともに、総務委員会から広報委員会を独立させ、インターネット、紙媒体による支部広報を充実させ、PRと会員拡大に注力する方針も確認された。

今年度が改選期となる人事については、前期までの根井支部長に齋藤繁・木暮幸弘両副支部長を加えた3人による正副支部長体制に、新たに吉田文江・田中規王（山行委員長兼務）副支部長が加わる正副支部長5人の体制が提案され、原案通り承認された。また役員体制の人的強化とともに、正副支部長が委員会を担務することも決まった。これは支部在籍の



会員数が増え、山行や各種事業も活発化し、活動範囲や分野が多岐にわたる中、役員会が支部の動きをリアルタイムで把握し、的確に組織としての意思決定をするとともに、広範な情報を共有し、役員会を核として支部全体に必要な情報を速やかに行き渡らせることが目的。さらに会計担当に新たに田村和彦会員が、監事には前年までの鈴木良徳会員に代わり元副支部長の荒木輝夫会員が就く人事案もあわせて承認された。もう一人の監事の中山達也会員は留任する。

規約の改正については、広報委員会の新設と事業委員会の廃止のほかは、文言や表現を実態に合わせる修正が主なものだが、今まで慣例として受け入れていた特別会員について、第3章会員の第5条（3）として明記された。

総会への出席は会場が24人、Zoomが3人で委任が22人。会員の過半数を超え規約に基づき有効に成立した。総会後は、近くのイタリアレストランで懇親会が開かれ、14人が参加し、ワインを片手に夜が更けるまで山談義が続いた。

山行報告

積雪期の蓼科山

2025年2月9日、支部山行として積雪期の蓼科山を実施しました。参加者は、武藤（守）、武藤（雅）、白石、星野、田中の5人。コースは、白樺高原スキー場からロープウェイを使った標高差およそ700mの往復（七合目一の鳥居⇒馬返し⇒蓼科山荘⇒蓼科山山頂）。

自然の芸術
蓼科山のシュカブラ



今期最高の寒波襲来とのことで、天気の手配をしていましたが、集合場所のスキー場に到着すると蓼科ブルーが我々を待っていました。山頂の極寒は覚悟の上で、全員で装備を確認してゴンドラ

に乗り込みました。登山口は、思っていた以上に雪が多くワカン、スノーシューをはいてのラッセルスタートとなりました。樹林帯は-15度の極寒を感じさせない、無風で静寂。静々と進み12:00、軒下まで雪に埋もれた蓼科山荘に到着しました。ここからは、ピッケル、アイゼンに装備を変えて山頂までの急登を進みました。気温は低いものの森林限界を超えても、それほど風はなく辺り一面に広がる美しいシュカブラ、自然の芸術に感動しました。

山頂からの絶景も満喫した後、ゴンドラ最終時刻を意識しながら来た道を下りました。最高の雪山山行となりました。（田中 規王）

春を迎える開間岳と韓国岳の旅

九州山行：3/21～3/23

3月下旬、関東より一足早く春を楽しもうと、九州の名峰・開間岳と韓国岳を目指した。

初日は移動日。鹿児島空港から車を走らせ、桜島を左手に見ながら南下して海鮮の美味しい海沿いの宿に前泊した。

2日目は、快晴の中、開間岳へ。山を巻くように続く登山道はほぼ樹林帯だが、新緑の中時折現れる鮮



薩摩富士と入線する西大山線

やかなアオキの実に気持ちが華やぐ。高度が上がる大きな岩も連続するようになり、景色がないことを幸いに足元に全集中する。山頂では視界の両側に湾曲した海岸線の長閑な海を捉えることができ、地元では見られない景色に旅気分が高まった。下山後は、日本最南端の駅「西大山駅」へ。運よく列車の入線があり、美しい円錐形の薩摩富士と共に写真に収めることができた。その後は人気店で黒豚のカツに舌鼓を打ち、次の宿へ向かった。

最終日は韓国岳へ。前日に続き天気は良く、赤松林のえびの高原をスタート。しばらく進むと視界が開け、目に入る円錐台形の山々は九州にいることを実感させる。噴煙を上げている山も近くに見え、活火山地帯ならではの荒々しさと美しさが共存する景色の中標高を上げる。山頂からの眺望は、霧島連山や青々と水を湛えた大浪池を一望できる360°の大パノラマ。足元にぽっかり空いた直径900m、深さ300mの火口湖も迫力満点だった。

今回は、暖かな気候の中、趣の異なる2座の山歩きと地元グルメを満喫でき、充実の山旅となった。（白石 直子）

雪の上州武尊山

4月5日（土）快晴。川場スキー場のリフト桜川エクスプレスの朝一番の運行開始に並ぶのは、ボーダーよりも雪山登山者が多かった。リフトを乗り継ぎ登山口へ向かう。ゲレンデトップに来て、春の陽気で風もない。アイゼンを付け、ゆっくり登り始める。予想していた融雪による踏み抜きは、先行者が派手に片足を落とし苦労するのを見て、より慎重に歩を進めたため、我々パーティーではなかった。朝の雪は締っていて、アイゼンがよく効き、気持ちいい。

今日のポイント、剣ヶ峰に向かうヤセ尾根あたり

まで来る頃には、後発の登山者が増え賑やかになってきた。左の視界に広がる谷川や新潟の山々をゆっくり見ていたいところだがそうはいかない。一番苦労したのは、剣ヶ峰からの下り。岩場に雪が少なく、次に足をつく場所を迷う。大きな岩で、先の足場が見えない。恐る恐る足を出していると、下からリーダーが、もっと岩に正対するようにと声をかけてくれた。言われた通り、岩から少し体を離してみれば、



剣ヶ峰

先の足場は広がった。安堵。先の目標とする武尊山までは、ずいぶん急斜面に見えていたが、先

頭の良いリズムについて登っていくと、気が付けば上州武尊の頂上に着いていた。

山頂では、群馬から新潟、栃木まで360度の雪山の眺望が待っていてくれた。絶景！ここでは十分堪能できる。
(中村由佳理)

南八ヶ岳編笠山・西岳

3月15日、支部のハード山行で編笠山・西岳を周回。

メンバーは田中、川端、白石、星野の4人。天気は曇り。景色は期待せず富士見高原登山口を7時出発。歩き始めはつば足、途中から簡単に装着できるワンタッチスパイクを試したが凍っていて登りづらい。滑るので軽アイゼンに付け替えた。こちらは安定して登ることができたが、編笠山直下の雪のない岩稜帯では歩きにくく、慎重に登った。

11時30分、計画どおり編笠山登頂。目の前には八ヶ岳最高峰の赤岳。私にとって赤岳は日本山岳会を知るきっかけとなった山だ。赤岳のお陰で今があると言ってもいいほどに、ご縁のある思い出の山。ここで記念撮影。



編笠山山頂（左から赤岳・ギボシ・権現岳）

夕方から天気が崩れる予報だったが、編笠山手前くらいから雪がちらつき、青

年小屋あたりから無風ではあったが本降りとなった。青年小屋で食事を取り、西岳へ向かった。下山道は氷の上に新雪が積もり油断できない状態であったが、メンバー皆無事下山でき、安堵した。

特に冬山では天気の変化に注意が必要となり、改めて天候判断や装備品の重要性を実感した山行となった。今後も安全に冬山の魅力とリスクの両方と正しく向き合っていきたい。

この日〇〇さん、3回落とし物をしたので今年の厄は落とせたことでしょう。
(星野 弘美)

佐渡～島登山の魅力～

4月30日から5月1日にかけて、有志4人で佐渡トレッキングを実施しました。本土とは異なる風景や環境の中で特別な体験ができると考え、以前より挑戦したいと思っていました。

1日目にジェットフォイルで新潟港から佐渡の両津港へ向かい、レンタカーとバスを用いてドンデン高原ロッジに向かいました。その後、尻立山へ登頂し、雄大な景色を堪能した後、ドンデン高原ロッジ



尻立山に登頂した時の写真

に宿泊しました。翌日はドンデン高原ロッジからアオネバ登山口へと下山しました。金銭的・身体的負担はやや大きかったですが、天気にも恵まれ、尻立山やロ

ッジからの眺めは、山と海が織りなす独特の景観で、極めて印象深いものであり、これを見られただけでも今回の企画を実施してよかったと思っています。また、クマが生息していないため、安心して登山ができます。



尻立山から見た風景（一部）

下山後は、金山等の観光を行い、翌日にジェットフォイルで新潟港に到着後、解散となりました。佐渡ならではの自然と環境を生かした登山を楽しむことができ、非常に充実したトレッキングとなりました。(八尾 聡)

スペシャル

想い出の山

九州の山旅紀行

金井 敏夫

2017（平成29）年3月、九州の山旅に行ってきました。計画は開聞岳・韓国岳・宮之浦岳・阿蘇山・祖母山・霧島山そして大山だ。

3月17日（金）8：00出発～0：58

福岡SA車中泊 49383km

18日（土）開聞岳

19日（日）韓国岳

20日（月）8：30発 鹿児島→屋久島へ

21日（火）屋久島半周 屋久島ランド

22日（水）宮之浦岳 6：00～14：00

23日（木）13：30発 屋久島→鹿児島へ

50293km

24日（金）鹿児島→岡城址→大分へ

25日（土）祖母山 8：00～12：00

26日（日）九重山 9：00～14：00

27日（月）しまなみ海道→出雲大社→神戸へ

28日（火）神戸→北陸自動車道→帰途へ

3月17日（金）渋川8：00出発

東名・中国・九州自動車道を通り、目指すは開聞岳。初日はどこまで行けるかわからないが広島まで行けたらと思い、ホンダNワゴンを運転。中国自動車道に入った頃から運転に気合が入り鳥栖を通過。広川SAまで来てしまった。

3月18日（土）5：00出発 開聞岳

熊本に入ると熊本地震の影響で片側車線と養生シートを被っている場所が多くなる。高速も鹿児島空港ICで降りれば韓国岳が近いのだが、どうしても一番に開聞岳に登りたい。鹿児島ICで降り、指宿スカイラインに入る。知覧特攻平和会館も行きたいが、悲しくなるのでやめることにする。

見えた！開聞岳！！素晴らしい！池田湖を半周し登山口に向かう。なんと12時前に着いてしまった。

登山道はらせん状に登るようになっているが広葉樹でなにもわからない。途中で見晴らしの良いところが何か所かある。やはり人気の山である。登山者が多くいる。急な岩場を登りきると山頂に着いた。池田湖の向こうに種子島が見えた。山頂から下を見ると登って来る時は気付かなかったが急斜面なのには驚く。

下山後、指宿に行くが、あまりの観光客なので温泉には入らず鹿児島に向かう。鹿児島から高速に入り、鹿児島空港ICで降り、霧島温泉郷に向かう。温泉街から湯気がいたるところで上がっている。韓国岳登山口の駐車場に車を停めて隣のホテルの温泉に入る。

3月19日（日）韓国岳

朝、広い駐車場には誰もいない。霧が立ち込めている。

駐車場から登山開始。登山口は駐車場の横。登り始めて20分くらいのところ、道路の路肩に車が数台ある。「皆様そこは駐車場ではありませんよ」。でも知っていれば自分もそこに車を駐車して登っていただろう。

いつ噴火してもおかしくない。硫黄の吹き出す場所を横に右に登って行くと、霧がなくなり、岩石が多くなっ

てきた。上を見ると数人が休んでいる。トラバースぎみに登って行くと雪がある。「あれ？もう頂上に着いた！」という感じ。大きな火口内は雪で真っ白。残念ながら高千穂は見えない。山頂で話をした人は、「あと1時間もすると晴れてくる」と言っていたが、山頂は5分もいればよい。下山する。

鹿児島市内に戻り、屋久島行きのフェリーの場所を探し、明日の屋久島行きを予約する。

ホテルに向かい、憧れの天文館で焼酎を味わう。ここでどうしても焼酎の飲みかたを確認したかった。というのは、グラスにお湯か焼酎のどちらを先にいれるかを。なぜなら、単身赴任の時に上司がいつも飲んでいて、「鹿児島で先に焼酎を入れたら怒られた」と言っていたので、本当だろうかと思っていた。本当だった！店主が出したお湯割りも、カウンターで話した人も同じであった。

3月20日（月）曇りのち雨 鹿児島港8：30出発

桜島が雄大だ。このフェリーに乗っている何人が宮之浦岳に登るのだろうか。出港してからしばらくすると、右に開聞岳が見えてきた。やはりいい山だ。フェリー内でシャワーを浴びる。車同乗の人だけ食堂で蕎麦を無料で食べさせてくれた。

13：00屋久島到着 土砂降りの雨

明日の登山のため、スーパーで食料を買い、淀口登山口の偵察に向かう。大雨の中、細い道をひた登る。対向車がこないの心細い。途中、屋久杉ランド入口があったので道は間違いないが、霧も出て不安になる。雪もある。淀口登山口確認。車は5～6台は駐車できそうだ。トイレもある。係員がいて、明日の夕方ここに車で来て、車中泊していいか確認して降りる。

淀口から雨の中、カンピロ側に時計回りで宿泊できそうな場所を探す。どんどん行くと西部道路に入ってしまう。ここは夜間通行禁止区域だ。道は狭く、落石危険とある。猿がいると思えば鹿もいた。この道はどこまで続くのだろう。「来るんじゃないか」。やっと通過したが、家などなく真っ暗闇だ。永田浜でトイレ付きの駐車場があり、そこで車泊と決めた。数軒の民家から灯りが見える。お湯を沸かしていると、1台の車が停まり、話しかけられた。どうやら地元の人らしい。「群馬からその車で来たの？」と言われた。タンカンを買って、いろいろ説明してくれた。群馬の人間が珍しかったのだろうか？

ここは永田浜で、日本で一番ウシ亀の産卵が多い所。海の向こうの灯りは口永良部島。

3月21日（火）曇り

永田浜から時計回りで島を半周して入港場所に戻る。今日は時間的余裕があるので温泉を探す。カンピロ側へまた行く。昨日は景色を見るゆとりがなかったので淀口へ。カンピロ側から花崗岩の大スラブは実にきれいだ。この辺は亜熱帯の雰囲気がある。

歩いているとタンカンを買った。民家の軒先にタンカンが一袋500円で売っている。スーパーで刺身を買ったり、明日の行動食と酒を買う。夕方再び淀口登山口へ向かう。途中屋久島ランドを半周し屋久杉の大木を見て回る。淀口登山口で、世界自然遺産の入園料を払う。またタンカンを買った。夜になると満天星だ。

3月22日（水）晴れ 宮之浦岳 淀川口出発6：00

朝方、車のライトで目覚めると、ヘッドランプをつけ

た数名の登山者が登って行った。自分も登山用具を着けヘッドランプの灯りを頼りに登り始める。整備された登山路を行くと杉の大木や知らない大木が現れる。40～50分歩くと下りになり、無人の小屋があり、先に出発した人達が休んでいた。もうこの先に先行パーティーは誰もいない。

右側の奥には花崗岩が風化していくつもの巨大な岩が見える。日本最南端の高層湿原を越えた所から氷が現れる。昨日までの雨のせいか、登山道は氷が張って滑りやすい。あげく雪も出てきた。雪は日陰で20～30cmあった。2時間くらい歩くと笹が多くなり、山腹には大きな丸い花崗岩が実に美しい。数人の登山者と行き交う。反対側から登った人たちだ。3時間くらい登った頃だろう、あれが山頂かなと思える頂が見えてきた。なだらかな道を行き最後に岩場を登ると山頂に到着10:00。山頂には2人の年配の登山者がいた。宮之浦岳は4回目、今回初めて晴れたとのこと。山頂からは種子島・硫黄島が見える。

この山は登り下りよりも距離が長かった。屋久島はスギと花崗岩と水の島だ。淀口下山14:00。温泉につかり、土産物店で遊ぶ。

3月23日(金) 曇り 屋久島港出港 13:30

今日はフェリーで鹿児島まで行き、市内のホテルに泊まるだけ、天文館で焼酎を飲もう。

3月24日(土) 曇り 6:00出発 阿蘇山に向かう

高速で熊本まで行き阿蘇山の仙酔峡へ。地震の影響により仙酔峡手前で道がなくなる。工事の人に聞くと仙酔峡ロープウェイも廃止、ここから先は入れないという。仕方なく、草千里から中岳側に行く。以前来たときは車がいっぱいあったのに、大きな駐車場はガラガラ。登山の用意をしていたら、ここから先は登山禁止との看板があった。事前に調べておけばよかった。

阿蘇山を諦めて祖母山に登ることとし、大分の竹田市へ向かう。竹田市側から祖母山登山に向け山里をどんどん山麓に入っていく。こんなところにも人が住んでいるのかと驚く。登山口に着くと雨が降ってきた。駐車場には誰もいない。登山は明日にしようと考え、散歩しながら周囲を見てみると、急にこんなところから登るのは嫌だと思い、再び熊本側に。途中、竹田市の岡城址に寄る。なんと素晴らしい城壁！まさに天空の城。

熊本側に入り、キャンプ地を探しながら久住高原ロードパークへ来てしまった。

3月25日(土) 小雨 8:00出発 祖母山

今日は登る。気合を入れて祖母山登山口へ。登山口には5～6台の駐車スペースがあるが、誰もいない。しかも曇りになってきた。ここまで来て登らないのは残念でならないので、気合を入れて出発することにした。

杉木立の登山道から落葉樹林帯になり、周囲は雪で白くなってきた。稜線に出た。他のコースからの登山路がある。積雪は20cmくらい。来た道を間違わないように木の枝を折り、ここを左に降りるのだと何回も自分に言い聞かせた。起伏の激しい稜線をいくつ越えただろう。雪景色の中から、また、もっこりと山が見えてくる。着いた！山頂だ！山頂は約30cmの雪。大山・石鎚山用に購入したゴアテックスの河童は快適だ。何も見えない中、写真を撮りすぐに下山。下山に注意した。左に降りる地点をずっと気にしていたが、気が付いた時にはとっく

に過ぎていた。
12:00登山口着。

明日の霧島に備えて行動食を買いに行く。店で「おいしいですか？」と聞くと、「うまかばい」と言ったのを忘れられない。

時間があるので黒川温泉へ行く。洞窟温泉の奥へ入って行くと女性の声がする。混浴かと思っていたが、つながっていなかったのが残念。

3月26日(日) 曇り 6:00出発 九重山

沢沿いの登山路に登り始める。途中、硫黄のにおいのする横を通り、登山路に従って急なところを登るとコンクリートの林道に出た。そこを横断して登山路に入ろうとするとロープがしてあり、地震で浮石が多く危険な為、登山禁止とある。までも良く調べてくればよかった。どおりで登山者がいない訳だ。仕方なく、もと来た道を戻る。結局2時間のロス。牧の戸口登山口に向かう。車で走っていると阿蘇連山が雪で真っ白だ。牧の戸口登山口の大駐車場は登山者でいっぱい！9:00登山開始。

ここで記録は終わっている。

腰痛になり、大山は登らず帰途に着く。



縁あり、雲取山へ行った時に会った人の関係で日本山岳会に入会しました。とても喜んでいたことを覚えています。

同封した物は、敏夫が2017年に九州へ行った時のものです。手帳に記してあったものを私が見つけ、少々推敲しました。敏夫が輝いていた時の一つの証であると思い、拙い文章ですが、読んでいただきたく送らせていただきました。

敏夫は令和2年に脳出血を発症し現在に至っています。病識がなく、一見、普通に日常生活に困ることはありませんが、社会生活を営むには程遠い現状で、デイサービスに毎日、行っています。

日本百名山は72登り、南アルプスと北海道の山が残り挑戦したかったと思います。本当に長い間お世話になりました。山岳会の皆様方にもよろしくお伝えください。

金井 栄子

.....

*この春退会された金井敏夫さんの九州山行記を「想い出の山」のスペシャル版として掲載しました。文章は基本的にご本人の表記の通りとしましたが、読みやすさや文体統一などの観点から改行や句読点、数字の表記など原文を一部変えたところもあります。



乾徳山



開開岳



手槍山



韓国岳



馬帽子ヶ岳



宮之浦岳



竜の登山



祖母山



鬼嶺山



久住山

荒天のスノーシューで貴重な体験

自然保護委員長 木暮 幸弘

自然保護委員会は2025年2月11日（火・祝）、沼田市の玉原高原で自然観察会を行った。

「スノーシューで雪原やブナ林を歩く」とした今回の自然観察会。公益事業として一般の参加者募集をしたところ17人から申し込みがあったが、当日は予報に反して天候の回復が遅れ、ときどきホワイトアウト状態になる荒れ模様。マイカーで参加予定の多くの方が途中でUターンしたり、集合場所のたんばらスキーパークには到着したものの、帰りのことを憂慮して参加を見送った方もいたりして、実際に参加したのは松本市から来られた信濃支部の方と横浜市から来られた神奈川支部のご夫婦の計3人だけになってしまった。

そんな状況だったから、動物の足跡をたどるアニマルトラッキングも風雪でかき消されて当然できない。湿原とブナ平を巡る当初の予定コースもスキー



雪上に集う自然観察会の参加者とスタッフ

場からの「山には入らないで」という注意もあって断念せざるを得なかった。

そんなわけで、コースは安全面を優先してペンション村を周回するコースに変更。スタートも1時間ほどずらして午前10時に出発した。山行委員長・田中規王さんを先頭に、およそ2時間半のスノーシューハイキングを実施。途中、雪上に落ちているツルアジサイの花がらの解説をしたり、ブナ林や玉原ダム誕生の話をしたりしながら巡ったが、参加者からは「新雪の上を歩く感覚がよかった」「知らないことが聞けて参考になった」などうれしい感想をいた

登山教室指導者養成講習会に参加して

4月12、13日と長野県小諸市にある安藤百福アクティビティセンターでJAC第15回指導者養成講習会に参加させていただきました。当日は全国11支部、計19人の参加となり多くの方々と交流することができ、「山行のスキルアップ」プラス「支部交流」ができたように思います。

1日目は座学で長野県警遭難救助隊の岸本隊長より「山岳遭難の実態と登山のリスク」の講義でした。特に感じたことは“遭難者の傾向は60歳以上の高齢者が多いが構成比率としては50代が最多である”といったことです。ではどうしたら良いか？ 自分を知り→自分に合った山を選び→必要

な体力・技量を付ける、といった内容で山のグレーディングを重要視していたことが印象です。次にJAC常務理事でもある平川理事より「雪山登山の基礎」「雪山の楽しみ方とリスク」の講義でした。

2日目は黒斑山周辺にて実技講習の予定でしたが、悪天候のため、研修施設内にて平川講師によるロープを使った実技指導となりました。本来は現場のシーンにあった指導がより実践的で良いと思いますが、自分としては装備を確実に装着する、正しい扱い、質問がしやすいなどメリットが大きかったのが実感です。ロープやスリングの取り扱いは支部・安全研修委員会でも実践しており大変参考になりました。本研修で装備の必要性、リーダーが判断しなければならないこと、山行リスク



ショートロープ牽引、ロープは束ねて持つ



コンティニュアス牽引



ツェルト設営のポイント

などを学ぶことができ、たいへん有意義でありました。少しでも実践で生かせるよう、今後の山行に臨みたいと思います。（武藤 守）

だいた。

なお、今回のスノーシューハイキングは、山行委員会との共催で実施。参加者募集は群馬支部のホームページと上毛新聞「ばれっと」（毎週月・木曜日）を活用した。上毛新聞の後援申請も行い、後日紙面

にも記事が掲載された。

結びに、スタッフとして当日参加していただいた会員の皆さんのおかげで事故もなく無事に観察会を実施できたこと、あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

新役員あいさつ

副支部長のお役を頂き

吉田 文江

日本山岳会会長の橋本しをりさんとのご縁で、昨年日本山岳会に入会し群馬支部とのご縁をいただきました。桐生山岳会を拠点に群馬県山岳連盟や女子登攀クラブでの海外登山を元に、地元桐生の吾妻山から8000mの登山をさせていただき、人と自然に対しての厳しさと温かさを体感することで両極を味わい、心豊かさが獲得できました。入会をご縁に、自然って計り知れないくらい学びがあるので、五感を思う存分発揮させて子供心を忘れずに色々な山登りをこれからも続けていきたいと思います。よろしく願いいたします。

日本山岳会でウェルビーイング

田中 規王

この度、日本山岳会群馬支部副支部長を拝命しました田中規王です。山岳会は「山」の価値を共有する幅広い年代、様々な立場の方が集う学びの多い集団であると感じています。会員の皆様が活発に交流し、山を通してますます幸福な人生が送れますよう、微力ではありますが、支部事業の活性化に力を発揮していきたいと考えています。支部会員の皆様には、より充実した群馬支部にしていくために、ぜひご協力をお願い申し上げます。

新しい群馬支部会計です

田村 和彦

今年度より、群馬支部の会計を仰せつかりました赤城山を望む富士見町の田村です。前職は金融機関勤務でしたが、40年以上本部勤務で自分以外のお金を扱ったことはなく、札勘定は素人同然です。

今年は自治会の役員やバレーボール連盟の役員も重なってしまいました。忙しくなりそうですが、会

員皆様のご協力をいただき、スムーズな会計処理を行うよう心掛けたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

監事に就任して

荒木 輝夫

日本山岳会「群馬支部」発足当初以来お世話になっております。これまで、支部役員としては「監事→会計→総務委員長→副支部長→事業委員長」と仰せつかって、再び「監事」として拝命されました。初心にかえて微力ながらお役に立てればと思っております。

NEWS

〔速報・短信〕

群馬県功労者表彰に会員2人

令和6年度の群馬県功労者表彰で、30人の受賞者のうち群馬支部から2人が受賞した。県政分野で県議会議員の阿部知世会員が、林業分野では森林自然解説ボランティア活動で木暮幸弘会員が受賞した。

スポーツ功労者賞には吉田文江会員

群馬県スポーツ協会会長賞の表彰式は2月22日、前橋市のALSOKぐんま武道館で開かれ、吉田文江会員は県山岳・スポーツクライミング連盟の推薦で令和6年度の群馬県スポーツ協会会長賞（スポーツ功労者賞）を受賞した。

東京支部設立

日本山岳会34番目の支部として東京支部が発足した。4月16日に設立総会が開かれ、群馬支部からも根井支部長が来賓として参加した。初代の支部長に就任した飯田邦幸さんは、群馬支部との連携にも積極的で、7・8月に予定されている群馬支部主催の「あかぎ林間学校」にも埼玉支部とともに強い協力の意向を示している。

支部長のつづやき①

木暮理太郎

日本山岳会第3代会長の木暮理太郎が群馬県（太田市）の出身であることが、実は県内の登山者の間でもあまり知られていない。一時は太田市のカルタにも載っていたが、その後カルタから外されてしまい、太田市民の記憶からも消えかけているようだ。山岳会創立に関わっていなかったとはいえ、早期の日本山岳会を支え、ヒマラヤ登山やその後の会の基礎を築いた日本を代表する登山家である。群馬の岳人の大先輩として、その足跡を学ぶことは実に興味深く、意義あることで、日本山岳会群馬



支部に入会したら、まずは太田市寺井町にある生誕地の碑を訪ねてほしいとさえ思う。

毎年11月3日には生家近くの川沿いに立つ碑の前で、顕彰活動が続ける「木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会」によって碑前祭と木暮理太郎翁を偲ぶ会が行われてきた。昨年からは群馬支部もその開催にあたり共催者として名を連ねることとなった。今年も同じ日に行われるので、ぜひ多くの会員に参加していただきたいと思う。

なお、この春から妙義ビジターセンターの展示コーナーに、日本山岳会創立の中心的役割を担った初代会長の小島鳥水らとともに、木暮理太郎の展示も加わった。妙義へ登られるときにもぜひ大先輩に敬意を表してほしい。（根井 康雄）

事務局だより

【主な活動・事業・イベント】……………
〈2025年〉

- 長七郎初日の出（1/1 赤城長七郎山）
- 新年例会（1/15 高崎・メトロポリタン）
- 本部支部事業委員会（1/27 Zoom）
- 本部山岳祭PT会議（1/29 Zoom）
- 【支部山行】水の塔山（2/2 小諸市・孺恋村）
- 登山道整備ワーキング（2/6 県自然環境課・Zoom）
- 【自然観察会】玉原（2/11 沼田市）
- 支部役員会（2/27 Zoom）
- 本部支部事業委員会（3/3 Zoom）
- 山の天気ライブ授業（3/15 神奈川支部）
- 【支部山行】ハヶ岳（編笠山・西岳）（3/15 山梨・南ハヶ岳）
- 支部例会（3/19 前橋・元気21）
- 【支部山行】玉原スノーシュー（3/22 玉原高原）
- 本部山岳祭PT会議（3/24 Zoom）
- 支部連絡会議（3/26 Zoom）
- 【自然観察会】（4/5 桐生・自然観察の森～吾妻山）
- 山の日イベント会議（4/10 前橋・県庁）
- 支部事業委員会指導者養成講座（4/12～13 小諸・安藤百福センター）
- 東京支部設立総会（4/16 東京・JICA市谷ビル）
- 埼玉支部登山講座（齋藤繁副支部長）（4/24 埼玉・ソニックシティ）
- 国東半島集中登山（4/26～27 大分・国東半島）
- 【春山合宿】平ヶ岳（5/3～5 群馬新潟県境・尾瀬～平ヶ岳）

- 谷川岳プロジェクト（山開き）会議（5/12 みなかみ・水上公民館）
- 支部通常総会（5/21 前橋・元気21）
- 岳連総会（5/31 前橋・福祉総合会館）
- 本部古道PT会議（6/2 Zoom）
- 【支部山行】一切経山（6/7 福島・一切経山）
- 群馬県山岳団体連絡協議会総会（6/12 前橋・元気21）
- 支部役員会（6/18 Zoom）
- 日本山岳会総会（6/21 東京・四ツ谷）
- 【支部山行】早池峰山（6/22 岩手・早池峰山）

【今後の主な予定】……………

- 国スポ・スポーツクライミング関東ブロック大会（6/28～29 前橋・群馬県総合スポーツセンター）
- あかぎ林間学校プレ登山（7/6 赤城・長七郎山）
- 東北・北海道地区集会（7/12～13 北海道・洞爺湖温泉周辺）
- 高頭祭（7/25 新潟・弥彦山）
- 上高地集中合宿（7/26 上高地・山研）
- 山の日イベントin谷川岳（8/9～11 みなかみ・谷川連峰周辺）
- あかぎ林間学校（8/17～18 赤城山・国立赤城ほか）

日本山岳会群馬支部報 第25号 2025年7月10日

発行：公益社団法人 日本山岳会群馬支部

〒371-0051 前橋市上細井町1200-7(根井方)

<https://shibu.jac1.or.jp/gunma/>

編集者：広報委員会支部報担当

発行者：根井 康雄 印刷：上武印刷株式会社